

# 能で長岡再発見



河井継之助記念館  
館長 稲川明雄さん

※稲川さんの後ろには「蔵王権現祭禮御覽之図」。長岡城二の丸前で共に祭りを楽しむ士民が描かれています

## 城址・アオーレに息づく士民協働の精神 能で長岡の市民性を再発見

江戸時代、長岡藩では武士の生活に能が欠かせないものになっていました。今から見ると士民協働の藩政の一部になっていて庶民にも広まっていた。その中心は城内の二の丸。能の舞台の間が二の丸にあり、殿様が自ら演じ、武士はもちろん家中の女性や庶民たちも観ることができました。能と一緒に楽しむことで人心が一つになる。長岡藩は庶民が何を要求するか、常に市民目線の意識が強かった。市民・領民あつての領主という考え方をとっていたんです。

今回のアオーレ長岡での能は大復活。この二の丸の空間は長岡の能にとっては聖地・原点です。アオーレは行政と市民の協働の場、市民が集まってくる場所です。今回の能を鑑賞して、長岡の伝統的な市民性を考えると面白い。

能は奥が深く、私たちの琴線に触れます。そして、長岡は何でこんなにいい伝統的な文化があるんだという感動につながります。自分たちの祖先が感じた感動と今の市民が抱く再認識。長岡の歴史や市民性を再発見できます。長岡市民であつて良かったということを見せてくれる。その原点をこの能で感じることができます。

今、アオーレ長岡は私たち市民の「感受性を豊かにしてくれる」場所。アオーレは行くと楽しい、パワーをもらえる、長岡市民で良かったと思える原点があります。それが二の丸跡・アオーレ。実に不思議ですね。



能楽師 鈴木圭介さん

小学校5年生で能を始める。大学進学した東京で櫻間金太郎に師事。櫻間金記と共に修行。初シテは長岡市公会堂での「狸々」(18歳)。悠久山薪能、セントラルパークでの能公演(写真)なども。公益社団法人能楽協会の金春流シテ方として海外公演に多数出演、今年10回以上東京へ出かけ舞台に立つ。一方、長岡中央青果の社長、会長を歴任(平成23年退任)。平成15年「長岡野菜ブランド協会」を設立、会長

## 底知れない「能」の魅力 素直に見て、想像豊かに感じてください

能の見どころ、楽しみどころは、まずは芸の力。舞う主役と相手役の力量とコーラスの力量、囃子方の力量が一体になるといい舞台になります。

そして、お客さんの想像力に任せよう、感じて、連想してもらおうと見る力に期待するところが相当大きい。だから底知れないんです。

退屈なものだとか、難しいものだと決め付けず、先入観を捨てて素直な気持ちで能を見てください。多くの市民のみなさんの来場をお待ちしています。



二の丸跡のセントラルパークで、厚生会館取り壊し前最後の能公演。舞台中央は鈴木圭介さん(平成20年4月27日)



▲能「狸々」



▶能「半部」



「稲垣平助館にて稽古能の図」城内三の丸近くの稲垣邸では士民を問わず能を見物させていた

江戸時代、長岡城下ではさまざまな芸能が士民協働で行われ、文化の発信地、交流・にぎわいの中心でした。アオーレ長岡が建つ場所は長岡城の二の丸跡。ここには能の舞台がありました。戊辰戦争で焼失後、明治時代には宝田石油株式会社と同地に能楽堂を建設。大正5年に平潟神社に移設されるまで、能はこの地で、時代を超え、身分を超えて多くの長岡人に親しまれていました。

11月16日、歴史あるこの地・アオーレ長岡で、能楽の舞台が復活します。重要無形文化財総合指定保持者の金春流シテ方の櫻間金記、人間国宝・狂言方の野村万作をはじめとする日本を代表する能楽師が多数出演。悠久の時を超えて復活する能楽堂で重厚かつ荘厳な舞台を創り上げます。

知っている、楽しみ倍増  
能 狂言の事始め

世界で唯一、650年もの間、伝え続く演劇、能楽(能と狂言)。ユネスコの世界無形遺産です。

### 「能」って?

猿楽や田楽などさまざまな芸能が混ざり合ってきた原型を、室町時代に観阿弥、世阿弥親子が集大成。美しい舞、ストーリー性などを加え、高度な舞台芸術に仕上げました。江戸時代には武家の式楽(公認の音楽)として発展。現在、5つの流儀(観世、金春、宝生、金剛、喜多)があり、詞や節回し、演出などが少しずつ違います。

主人公のほとんどは幽霊。時代や国によっても変わらない人間の本質や情念を描いています。

▼シテ(主役)、ワキ(相手役)、ツレ(助演者)、後見(演者の手助け役)、地謡(合唱)、囃子(楽器の演奏)

### 「狂言」って?

庶民の目線で世相を風刺する笑いの台詞劇。観阿弥、世阿弥親子が能とセットにしました。能の幽玄世界から笑いの世界へ観客をリラックスさせます。長い歴史の中で洗練された笑いの芸術とされています。



国立能楽堂と同様の配席がアリーナに

### 日本の伝統、優美な世界 アオーレ長岡 能公演

時11月16日(土)午後3時~6時 場アリーナ  
全席指定A席3,000円、B席2,000円  
演目・出演者=能「半部(立花)」櫻間金記、狂言「萩大名」野村万作、仕舞「砦詰」遠藤六郎、能「狸々」(相舞)鈴木圭介

★チケットは、リリックホール、市立劇場、イオン長岡店、文信堂書店(長岡駅ビル内)で発売中

### 長岡城を考えるシンポジウム 長岡城とお能

時11月11日(月)午後6時30分~8時 場市民交流ホールA  
出演=牧野家第17代当主、科学博物館名誉館長・牧野忠昌さん、能楽師・鈴木圭介さん、河井継之助記念館館長稲川明雄さん、(聞き手)長岡フィルムコミッション会長・渡辺千雅さん 定250人(先着) ★整理券はリリックホール、市立劇場などで配布中

### 能面がもつ豊かな表情 岩崎久人 能面展

多くの能楽師が使用し、その高い精神性と造形美によって舞台の成功を成し遂げている岩崎久人作の能面を多数展示します。能装束の展示もあります。  
時11月10日(日)~16日(土)午前10時~午後6時 場市民交流ホールC

会場は全てアオーレ長岡

問長岡市芸術文化振興財団 ☎29・7715